

◆主なマーケットの動き

株式	債券	為替
<p>日本株式（10/11） 米中通商協議を巡る閣僚級会合が前日からワシントンで再開され、トランプ米大統領が非常にうまくいったと述べるとともに、10/11には劉鶴中国副首相と会談すると語るなど、部分合意を含めて何らかの合意に至るとの期待が一段と高まる中、トヨタ自動車や日本郵船を始めとする景気敏感銘柄に買いが広がったことや、108円台までの円安進行が輸出関連銘柄の下支えとなったことに加えて、香港株式市場が大幅続伸するなどアジア株式市場は総じて上昇したことや、好決算を発表したファーストリテイリングが上昇したことも押し上げ要因となり、3連休前のポジション調整の買い戻しも相まって、日経平均株価は大幅続伸となりました。</p> <p>グローバル株式（現地10/10） 米中通商協議を巡る閣僚級会合を前にして様子見ムードが強い中、相次ぐ部分合意の可能性を伝える報道を好感して、香港・上海株式市場が上昇した一方で、ポジション調整売りで韓国・インド株式市場が下落するなど、アジア株式市場はまちまちでした。欧州では、独8月貿易統計で市場予想以上に輸出が落ち込み、売りが先行しましたが、英国のEU（欧州連合）離脱を巡って英国とアイルランドの首脳会談でEUとの合意を目指した協議継続が示されたことや、米中通商協議の進展期待を背景に、素材や自動車関連銘柄を中心に買いが広がり、欧州株式市場は総じて上昇しました。米国では、米中通商協議を巡る閣僚級会合が再開する中、トランプ米大統領が10/11に劉鶴中国副首相と会談するとツイートしたことを切っ掛けに、部分合意への期待が一段と高まり、キャタピラーを始めとする中国関連銘柄に買いが広がったほか、米政権による中国通信機器最大手ファーウェイ制裁の一部解除報道を受けて、同社に部品を供給する関連銘柄にも買いが入るなど、主要3株価指数が揃って続伸しましたが、閣僚級会合の結果を見極めたい投資家も多く、上昇幅は限定的でした。</p>	<p>先進国債券（現地10/10） 独8月貿易統計で輸出が市場予想以上に落ち込み、独景気の後退懸念が強まったものの、公表された9月ECB（欧州中央銀行）理事会の要旨で、多数の参加者が量的金融緩和の再開に消極的だったものの、ドラギECB総裁が押し切ったことが判明し、ECBの追加緩和観測が後退したことに加えて、英国の合意なきEU離脱を回避できる可能性が示されたことや、米中通商協議を巡る閣僚級会合での部分合意への期待が一段と高まったことを受けて、独10年物国債利回りがそれぞれ-0.47%、-0.15%まで上昇し、独30年物国債利回りがプラス圏に戻すなど、欧州債券利回りは総じて大幅上昇（債券価格は下落）しました。米国では、欧州債券利回りの大幅上昇が波及したほか、ファーウェイ制裁の一部解除など、再開された米中閣僚級会合への期待が高まる中、トランプ米大統領が10/11に劉鶴中国副首相と会談するとツイートしたことを切っ掛けに、部分合意への期待が一段と高まると、安全資産とされる米国債を売る動きが活発化し、10年物国債利回りが1.67%まで上昇するなど、米国債券利回りは大幅上昇となりました。</p>	<p>ドル円為替レート（現地10/10） 米中通商協議を巡る閣僚級会合に注目が集まる中、先立って行われた次官級会合では進展が見られず、早朝に107円近辺まで円高が進んで始まった東京時間は、閣僚級会合の予定通りの開催やファーウェイ制裁の一部解除など、協議進展への期待を残す報道が相次ぐ中、円売りが優勢となり、神経質な展開ながら107円台半ばまで円安が進みました。海外では、再開された米中閣僚級会合への期待が高まる中、トランプ米大統領が10/11に劉鶴中国副首相と会談するとツイートしたことを切っ掛けに、部分合意への期待が一段と高まると、円売りが優勢となり、108円近辺まで円安が進みました。</p>

◆基準価額の動き

※以下の表中の「組入れファンドの動き」のうち、「米ドルベース」とは、当該組入れファンドが米ドル建のものです。「為替ヘッジなし」は、当該組入れファンドが円建のもので、為替ヘッジは行っていません。「為替ヘッジ」は、当該組入れファンドが円建のもので、為替変動の影響を抑えるために為替ヘッジを行っています。一般に、為替ヘッジを行った場合には、ヘッジコスト（ヘッジ対象通貨の金利と円金利の差）がかかります。

ぜんぞうシリーズ

ファンドの動き		組入れファンドの動きと組入比率（目標）		
		先進国債券 （為替ヘッジ）	先進国株式 （為替ヘッジなし）*1	新興国株式 （為替ヘッジなし）*1
		↓下落	↑大幅上昇	↑上昇
ぜんぞう 1502,1702,1704,1709,1802,1804,1807,1810 *2	↑上昇	40%	50%	10%
ぜんぞう 1901	↑上昇	55%	38%	7%
ぜんぞう 1904	↑上昇	70%	25%	5%
ぜんぞう 1907	↑小幅上昇	85%	13%	2%

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

※"- "は組入れが無いことを表します。

*2:ファンドによって動きが異なる場合があります。

米ドル/円レート（ニューヨーク）	↑円安
------------------	-----

*3:安定的な債券運用に切り替わっています。

◆基準価額とグラフはこちら

1408	1502	1505	1508	1602	1605	1702	1704
1709	1802	1804	1807	1810	1901	1904	1907

◆コメント

- ・先進国債券市場は下落。先進国株式市場、新興国株式市場は共に上昇。（現地通貨ベース）
- ・「先進国債券」は下落。ドル円為替レートは円安となり、為替の動きを加味した「先進国株式」は大幅上昇、「新興国株式」は上昇。
- ・株式比率の高い「ぜんぞう1502、1702、1704、1709、1802、1804、1807、1810」の基準価額は前日比上昇。
- ・漸増期間中の「ぜんぞう1901」「ぜんぞう1904」の基準価額は前日比上昇、「ぜんぞう1907」の基準価額は前日比小幅上昇。

・なお、「ぜんぞう1508、1602」は2018年7月5日に、「ぜんぞう1505、1605」は2018年11月29日に信託終了（繰上償還）、「ぜんぞう1408」は2018年12月10日に信託終了（満期償還）致しました。

しずくシリーズ

組入れファンドの動き			ファンドの動きと基本資産配分		
			海のしずく ↓小幅下落	森のしずく ↑小幅上昇	星のしずく ↑上昇
先進国中短期投資適格債券	為替ヘッジ	↓下落	75%	50%	24%
米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジあり）	為替ヘッジ	↑小幅上昇	25%	25%	8%
先進国好配当株式	為替ヘッジ	↑上昇		25%	26%
先進国株式	為替ヘッジなし*1	↑大幅上昇			26%
新興国株式	為替ヘッジなし*1	↑上昇			8%
米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジなし）	為替ヘッジなし*1	↑上昇			8%
米ドル/円レート（ニューヨーク）		↑円安			

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

◆基準価額とグラフはこちら [海のしずく](#) [森のしずく](#) [星のしずく](#)

- ◆コメント
- 海のしずく 「米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジあり）」が小幅上昇だったものの、組入れ比率の高い「先進国中短期投資適格債券」が下落となったことから、海のしずくの基準価額は前日比小幅下落。
- 森のしずく 「先進国中短期投資適格債券」が下落となったものの、「米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジあり）」が小幅上昇となったほか、「先進国好配当株式」が上昇となったことから、森のしずくの基準価額は前日比小幅上昇。
- 星のしずく ドル円為替レートは円安となり、為替の動きを加味した「先進国株式」が大幅上昇となったほか、「新興国株式」も上昇となったことなどから、星のしずくの基準価額は前日比上昇。

くらだし

組入れファンドの動き			くらだし
配当成長株式	為替ヘッジなし*2	↑上昇	↑上昇
米ドル/円レート（ロンドン）		↑円安	

*2:「為替ヘッジなし」は、現地の株式等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。
なお、本ファンドは株式と通貨のカバードコール戦略を採用しています。

◆基準価額とグラフはこちら [くらだし](#)

- ◆コメント
- 配当貴族指数が上昇する中、本ファンドの配当成長株式ポートフォリオは上昇。
 - ドル円為替レートが円安となり、組入れファンドが上昇したことから、くらだしの基準価額は前日比上昇。
 - 株式カバードコール戦略、通貨カバードコール戦略共にマイナス寄与。
- * 配当貴族指数とは、S&P500配当貴族指数とS&Pグローバル配当貴族指数を1：1の割合で合成したものです。

しゅういつ

ファンドの動き	しゅういつ
日本株式集中投資戦略（マザーファンド）	↑上昇

◆基準価額とグラフはこちら [しゅういつ](#)

- ◆コメント
- 参考指標であるJPX日経インデックス400が上昇となる中、しゅういつの基準価額は前日比上昇。
 - 個別銘柄では、トヨタ自動車、ソニーなどの銘柄がプラス寄与、花王、SOMPOホールディングスなどの銘柄がマイナス寄与。

たんはい

組入れファンドの動き			たんはい有	たんはい無
米国短期ハイ・イールド債券	為替ヘッジ	↑小幅上昇	↑小幅上昇	
米国短期ハイ・イールド債券	為替ヘッジなし*1	↑上昇		↑上昇
米ドル/円レート（ロンドン）			↑円安	

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

◆基準価額とグラフはこちら [たんはい有](#) [たんはい無](#)

◆コメント

- 米国株式市場が上昇する中、米国ハイ・イールド債券市場は小幅上昇となり、たんはい有の基準価額は前日比小幅上昇。
- ドル円為替レートは円安となり、たんはい無の基準価額は前日比上昇。

てつさん

組入れファンドの動き			てつさん
先進国株式	為替ヘッジなし*1	↑大幅上昇	↑大幅上昇
新興国株式	為替ヘッジなし*1	↑上昇	80%
米ドル/円レート（ニューヨーク）			20%
米ドル/円レート（ニューヨーク）			↑円安

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

◆基準価額とグラフはこちら [てつさん](#)

◆コメント

- 先進国株式市場、新興国株式市場は共に上昇。（現地通貨ベース）
- ドル円為替レートは円安となり、為替の動きを加味した「先進国株式」は大幅上昇となり、「新興国株式」も上昇となったことから、てつさんの基準価額は前日比大幅上昇。

あおぞら投信株式会社からのお知らせ

【ご購入に際しての留意事項】

◆投資信託に係るリスクについて

投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額が変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資家の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」を必ずご覧ください。

<投資信託に係る費用>

◆投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	上限3.85%（税抜3.50%）
換金時手数料	上限1.10%（税抜1.00%）
信託財産留保額	ありません。

◆投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	純資産総額に対して 上限年率1.8835%（税込）
その他費用	上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等でご確認ください。

※上記当該手数料等の合計額については、ファンドの保有期間に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

- ・上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。
- ・費用の料率につきましては、あおぞら投信が運用するすべての投資信託のうち、投資家の皆さまにご負担いただく、それぞれの費用における最大の料率を記載しております。
- ・投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等をご覧ください。
- ・投資信託は預金保険または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。投資信託は金融機関の預金と異なり、元金および利息の保証はありません。
- ・投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- ・コメントは作成時点における見解であり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の動向や結果を示唆あるいは保証するものではありません。また、個別銘柄を推奨するものではありません。

あおぞら投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2771号
加入協会 一般社団法人 投資信託協会